

中生モモの平棚仕立て栽培による生産安定技術

中生モモでの平棚仕立て(改良H字形整枝)は、立木仕立て(2本主枝開心自然形整枝)や超低樹高仕立て(一文字整枝)より成園化が早く、若木時の作業性も優れている。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:岡田眞治)

研究のねらい

ビニールハウス栽培の早生モモや防蛾用ネット被覆栽培の晩生モモでは平棚仕立てが現場に普及しているが、新盆需要期に出荷できる「あかつき」「なつおとめ」等の中生モモでは立木仕立て(開心自然形整枝)が主流となっている。

そこで、中生モモの早期成園化と作業効率向上を図るための整枝法について検討する。

研究の成果

1. 「あかつき」での平棚仕立て(改良H字形整枝)と立木仕立て(2本主枝開心自然形整枝)の比較では、1樹当たりの樹冠占有面積及び収量は、3~5年生を通して、前者が後者の約2倍である(図1、2)。また、1樹当たりの累積着果数は約1.8倍である(図2)。
2. 3~5年生の果実品質については、平棚仕立ては立木仕立てより1果重が重く、糖度がやや低い(図3)。なお、収穫1ヵ月前から不織布マルチをすることにより糖度を約1度上げることができる(データ略)。
3. 作業性については、立木仕立てでも着果部がまだ全体的に低いため、5年生までは両者に差がみられない。
4. 「なつおとめ」での平棚仕立て(改良H字形整枝)と超低樹高仕立て(一文字整枝)の比較では、1樹当たりの樹冠占有面積は、3、4年生で、前者が後者の約1.5倍である(図4)。また、1樹当たりの着果数は約1.8倍、収量は約1.9倍である(図5)。
5. 3、4年生の果実品質については、平棚仕立ては超低樹高仕立てより1果重が重く、糖度には差がみられない(図6)。
6. 作業性については、超低樹高仕立てではまだ地上1m以下に着果した果実が多く、4年生までは平棚仕立ての方が勝っている。
7. 以上のことにより、中生モモでも平棚仕立てが有利と考えられる。

普及上の留意点

1. 平棚仕立ての整枝法は4本主枝の改良H字形整枝とし、植栽距離は4m×8mを基本とする。
2. 樹冠占有面積1㎡当たり着果数は15果程度とする。

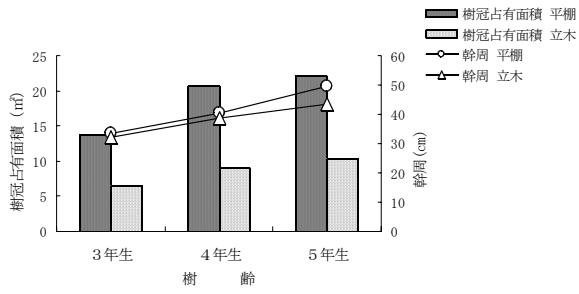


図1 「あかつき」若木樹の樹冠占有面積と幹周の推移

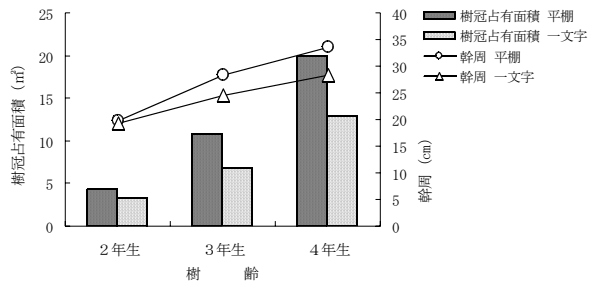


図4 「なつおとめ」若木樹の樹冠占有面積と幹周の推移

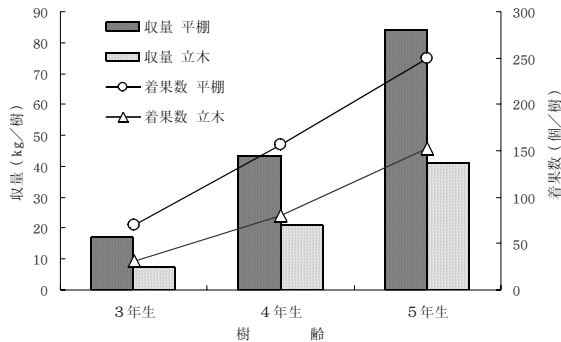


図2 「あかつき」若木樹の収量と着果数の推移

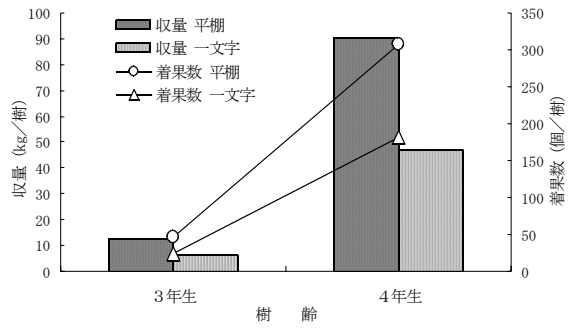


図5 「なつおとめ」若木樹の収量と着果数の推移

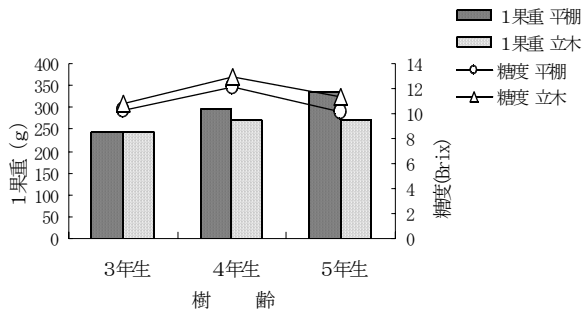


図3 「あかつき」若木樹の1果重と糖度の推移

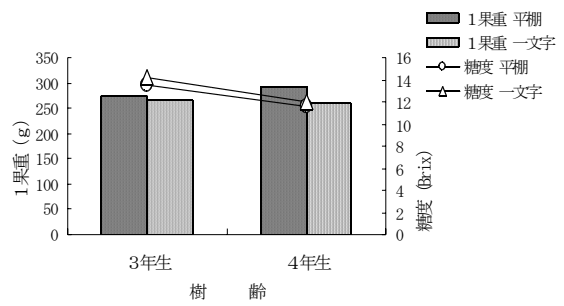


図6 「なつおとめ」若木樹の1果重と糖度の推移

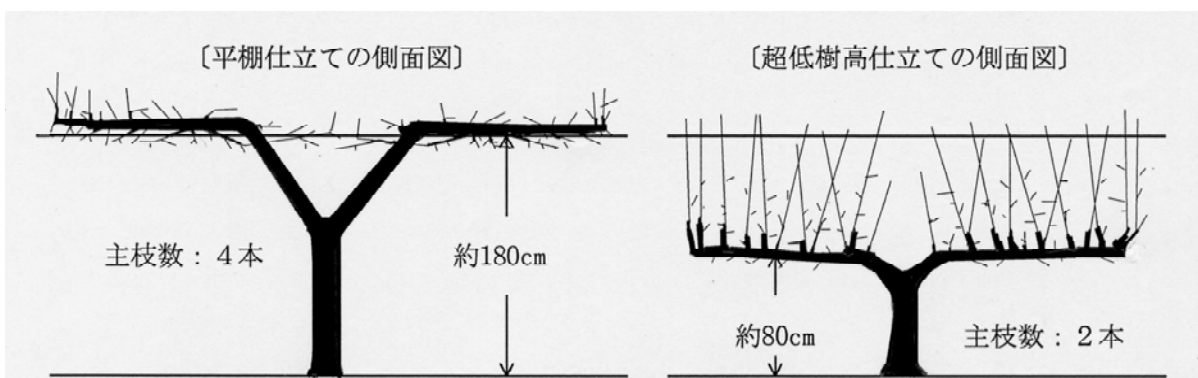


図7 平棚仕立て（改良H字形整枝）と超低樹高仕立て（一文字整枝）のせん定後の状態